

公立尾陽病院改革プランの概要

近年、医師不足や診療報酬の引き下げ改定等により、多くの公立病院において経営が悪化し、医療提供体制の維持が困難な状況となってきています。こうした状況下で、総務省は、すべての公立病院が公立病院改革プランを策定し、経営効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直しという3つの視点に立った改革を一体的に進めるように強く求めました。

こうした要請を受けて、公立尾陽病院における経営健全化等の改革を具体的かつ着実に実行していくために策定したのが、「公立尾陽病院改革プラン」です。

●計画期間

平成21年度から25年度までの5カ年間
(実施可能なものは平成20年度から実施)

●公立尾陽病院の担う役割と医療連携(再編・ネットワーク化)

公立尾陽病院の存在意義であり目標は次のとおりです。

住民の健康保持のために必要となる 医療提供体制の確保

この目標を達成するためには、地域の他の医療機関との連携により医療提供体制を考えていく必要があります。公立尾陽病院としては名古屋第一赤十字病院との医療連携を図っていくことが最善であると考えます。

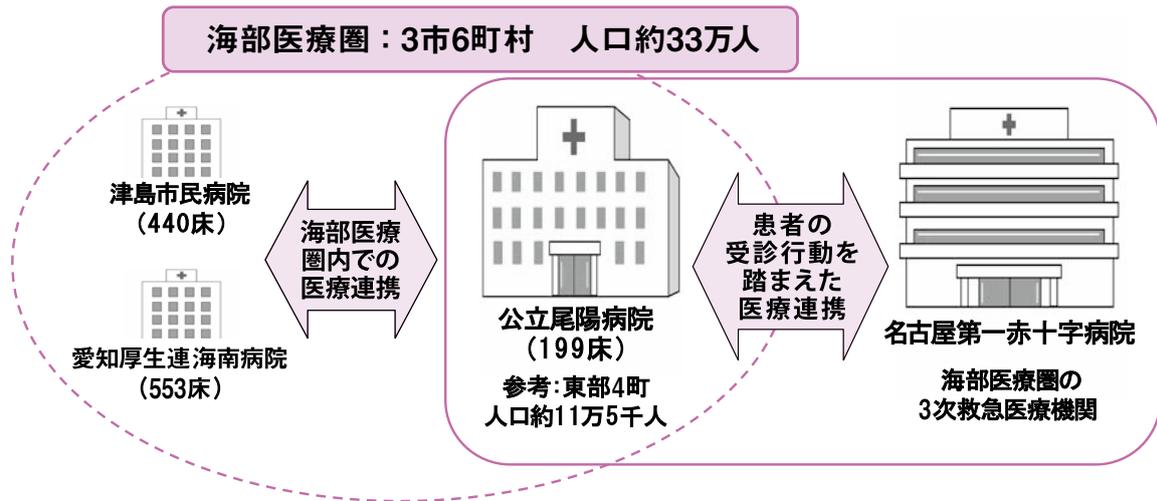
- 公立尾陽病院は、海部東部地域における唯一の急性期病院
- 高齢化等に伴う医療ニーズの増加などを考えると、公立尾陽病院が地域医療の確保のために基幹病院として果たす役割は一層重要

- 全国的な医師不足の状況などを考えれば、医療提供体制を公立尾陽病院単独で整備することは困難
- 他の病院と機能分担を図り、連携・ネットワーク化を進めていくことが重要

海部東部地域における強固で安定した医療体制を確保するためには、公立尾陽病院が名古屋第一赤十字病院と医療連携を図っていくことが最善

- 海部東部地域は名古屋市に隣接し、患者の受診行動は名古屋市内の病院を強く志向(名古屋第一赤十字病院でも海部東部地域からの患者が非常に多い)
- 名古屋第一赤十字病院は、海部医療圏における3次救急医療機関(救命救急センター)という位置付け

◎公立尾陽病院の目指す医療(病院間)連携のイメージ



※地域において医療提供体制を確保するためには、名古屋第一赤十字病院との連携のみでなく、海部医療圏内の津島市民病院および厚生連海南病院との連携、さらには地域で開業している医師の方々の力が不可欠であり、海部医療圏内の各医療機関との連携・協力体制についても強化を図ります。

医療連携における
公立尾陽病院の役割の設定

医療連携に当たっては、公立尾陽病院が海部東部地域の基幹病院として一定の役割を担いつつ、名古屋第一赤十字病院の後方支援病院としての役割を担うことで、さまざまな医療に対応できる体制を確立することが重要です。そのため公立尾陽病院は、2次救急医療機関としての急性期病院という役割にとられず、担うべき役割を次のとおり設定します。

・海部東部地域における外来救急医療

⇒ 海部東部地域から名古屋第一赤十字病院へ流れている一般外来・外来救急に歯止めをかける。

・救急医療におけるスクリーニング機能

⇒ 海部東部地域の救急搬送患者の第一次的な受け入れ病院となり、高度救命救急機関による処置(再搬送)の必要性を判断する。

・亜急性期の患者および高度救命救急を要しない患者の受け入れ

⇒ 名古屋第一赤十字病院において必要な空病床数を確保するため、亜急性期の患者および高度救命救急を要しない患者を受け入れる。

◎医療機関に向けた具体的な取り組み

公立尾陽病院は既に名古屋第一赤十字病院と病病連携協定を結び、患者の受け入れ、看護研修、医師派遣の受け入れなどを行っています。さらに平成21年度には、両病院間で医療連携の強化策や将来的な地域医療の提供体制等を検討するための検討会を設置します。

【検討項目】

- ・公立尾陽病院が担う具体的医療の内容
- ・公立尾陽病院の規模・機能(施設・設備)
- ・公立尾陽病院の経営健全化に向けた名古屋第一赤十字病院との関係強化

【公立尾陽病院としての基本的方向】

- ・亜急性期医療、回復期リハビリテーション医療の強化
- ・150床を目安とした病院機能の再構築
- ・設定した機能にマッチした施設・設備の整備
- ・地域医療の再編・ネットワーク化の具体策(パターン)の提案と実現